

新型コロナウイルス感染症の拡大は、鹿児島市の繁華街天文館にも影を落としている。ゴールデンウィークの休業要請に続いて、7月にはクラスター（感染者集団）も発生。車の通行が減り人通りも途絶えた。「まるでゴーストタウンになったみたいに感じた」

往來に回復の兆しはあるが、まだまだ先は見えない。商店街の激変ぶりを目の当たりにし、街を元気にしようと仲間と始めたのが「天文館ひまわりプロジェクト」だ。

活動に賛同する店舗に

天文館ひまわりプロジェクト発起人

かお

ありま 有馬 明^{あきはる}治さん



ヒマワリを提供し育ててもらう。黄色いヒマワリを飾れば周囲が明るくなつて、買い物客も少しずつ戻ってくるのではとの願いを込めた。商店街としてコロナ対策にもしっかり取り組む覚悟だ。

商店街の街という漢字

から「例えば洋服店の隣に靴店があつてというように、その土地土地を人々が自由に行き交うイメージ」を連想するという。そんな光景をコロナが寸断した。「隣近所の人同士が支え合うのが商店街。その絆を再生しなければ」。

生まれ育った「天文館」への思いは熱い。

同市中町で時計店やジュエリー店を営んできた老舗の4代目。鶴丸高校から鹿児島大学大学院工学部を出て、米国の専門学校で宝石の鑑定・鑑別士の資格を取得した。長崎の宝石店で5年半ほど働いた後、家業を継ぐため、2005年に戻ってきた。

祭りが好きで、鹿児島の夏の風物詩「おぎおんさあ」では、三番みこし保存会ナンバー2の助頭を務める。48歳。

（中島裕一郎）